

Profile

口田学区

口田学区は、広島市中心部から10km程北東に位置し、戸建住宅やマンションが密集する住宅街で、2011年（平成23年）現在、約4,100世帯が暮らしています。



地域に潜む危険性を知る

口田地区では、道路が狭くなっているところがあり、場所によっては、緊急時における災害対応に支障をきたすことが危惧されてきました。このため、地域住民の災害に対する意識も高く、防災訓練などの活動が毎年継続して進められています。また、防火についても意識が高く、防火対策として、『ごみ置き場マップ』を作成するなど、積極的な取り組みが展開されています。

災害の経験を生かした防災活動

今回の水害があったからには、以前にも増して、自主防災活動への取り組みが活発になっています。高台にあるお寺や神社、マンションなどと合同での実践型避難訓練や、普段から生活する自分たちの地域の特性をもっとよく知り、災害が発生した際に適切な避

難誘導を行うための図上訓練なども実施されています。



総合的な地域防災力の向上を目指して

浸水を経験した地区では、この災害を教訓に、『内水氾濫に伴う警戒避難マニュアル』が策定されました。口田学区自主防災会連合

会では、このマニュアルの検証訓練を実施し、河川管理者をはじめ、区役所及び消防署などの関係機関との連携や、自主防災組織未加入世帯を含む地域住民への情報伝達方法など、今後の災害に備えた取り組みが積極的に進められています。

災害が発生しないということがいいのは、言うまでもありませんが、災害から得た貴重な教訓を風化させることのないよう、これからの取り組みに生かしていくことが、自主防災活動を進めていく上で重要です。



世代を超えて取り組む 防災活動

けごやちく

警固屋地区自主防災連合会

(呉市)

地域のこれからを担う
次世代の人材育成

自主防災組織が、その活動の
ベースとする地域の状況は、場所
によってさまざまです。

こうした中、住民一人ひとりが
防災の担い手であることを認識
し、将来にわたって、その活動が
継続的に取組まれるよう、幅広い
世代に対して人材の育成を図って
いく必要があります。特に少子化・
高齢化が進む現代においては、次
世代を担う人材の育成が急務であ
り、子供たちに小さな頃から防災
意識を持つってもらうことが非常
重要なものとなります。

2004年(平成16年)4月
に、18の自主防災組織の連合体
として結成された警固屋地区自主
防災連合会(呉市)では、地域の
運動会に、防災に関するアトラク
ションを盛込んだり、学校と連携
して、訓練や研修会を行うなど、
高齢者中心となりがちな自主防災
活動に、若年層の積極的な参加が
図られるよう工夫が凝らされてい
ます。



Profile

警固屋地区

警固屋地区は、呉市中心部から南西に5 km 程に位置する、“音戸の瀬戸”を望む地域で、2011年（平成23年）現在、約2,900世帯が暮らしています。



災害や犯罪から 地域を守るために

警固屋地区は、多くの住宅が傾斜地に密集しており、これまでも、地震や土砂災害をはじめ、高潮、水害などの自然災害に悩まされてきた地域です。そのため、早くから住民の防災に対する関心が高く、以前から地域で活動している『自主防犯パトロール』との連携を図りながら、防災・防犯の両面で、活発な活動が展開されています。また、連合会の結成とあわせて、地域に立地する企業と『安全なまちづくり応援協定』を締結し、大規模な災害や犯罪が発生した際には、地域で一丸となった取り組みが展開できるよう、ソフト面での基盤整備も進められてきました。



広がりを見せはじめた 若者たちとのつながり

警固屋地区での取り組みが、実際に広がりを見せるきっかけとなったのは、地域内の団体を、防災と結びつけるための積極的な働きかけからでした。消防署や交番のほか、小学校や中学校などとも調整を図り、地域で暮らすさまざまな世代を、その活動に取込んでいきました。とりわけ、若年層に対する防災教育には力を注いでいます。子どもたちも積極的に参加している地域の運動会を絶好の機会として捉え、そこに防災をテーマにした競技を取入れたり、体育館での避難所宿泊体験や防災かるた大会など、子どもたちが楽しみながら参加できるような取り組みが進められています。



世代を超えた 取り組みへ向けて

若年層からの防災教育を積極的に進める理由の一つに、構成員のほとんどが高齢者であるということが挙げられます。警固屋地区では、地域に暮らすさまざまな世代が楽しめる活動を進めてきた結果、防災活動の経験を持つ若い世代が増えてきています。今後は、この若い世代の自主防災活動への主体的な参画が期待されます。自主防災組織がその活動を継続的に進めていくためには、次代を担う人材を確保していくことが重要です。地域をよく知る大人やお年寄りの方たちと、若い世代との繋がりを深めていくことが、地域を守っていくための大きな力となります。



「ふるさとづくりネットワーク」 による自主防災

おさかちよう

小坂町防災会 (三原市)

自主防災活動を支える 地域団体との連携

自主防災組織の活動は、地域のさまざまな団体による活動や、地域行事などと結びつけることによって、その活動の幅にも広がりが生れます。

7ページで触れた、地域のお祭りや運動会のほかにも、日常的な教育や福祉、環境美化活動など、さまざまな地域活動の中に、災害時の活動に活用できるものを見ることが出来ます。

こうした、暮らしと密接に結びついた防災活動は、普段の生活の延長線上にあるため、自主防災組

織が、その活動を長続きさせるための効果的な取組みといえます。

2004年(平成16年)に結成された、小坂町防災会(三原市)では、町内会をはじめ、教育機関や各種ボランティアグループ、医療・福祉施設など、地域にあるさまざまな団体との連携が、極めて自然なかたちで図られており、住民一丸となった防災活動が進められています。



小坂町

小坂町は、三原市中心部から西側へ6 km 程の位置にあり、古くからの農村地帯と昭和40年代に造成された団地が混在するまちで、2011年(平成23年)現在、約700世帯が暮らしています。



混在する新・旧 ふたつのコミュニティ

小坂町は、古くから農業が営まれてきた地域でしたが、昭和40年代に団地が造成されたことに伴い、従来から存在していた農村地域のコミュニティ『小坂町内会』と、新たに造成された団地のコミュニティ『小坂団地自治会』、新旧2つのコミュニティが、ひとつの地域に混在することになりました。しかし、当時から両者が軋轢を生じることなく、互いに支え、協力し合う、共存共栄の関係が築かれてきています。

各種団体による 地域活動ネットワーク

小坂町防災会の大きな特徴は、『ふるさとづくりネットワーク』という言葉に表れているように、地域に存在するさまざまな団体との連携にあります。

小坂町内会と小坂団地自治会、2つの地域コミュニティによる連

携はもろんのこと、女性会や老人会、PTA、子ども会などの団体で『小坂町各種団体協議会』を構成しており、随時、イベントのスケジュール調整などを図っています。また、地域の医療・福祉施設と合同の防災訓練を実施したり、三原市社会福祉協議会や赤字奉仕団

との協力による、

地域住民への普及啓発活動など、さまざまな団体と一緒に、さまざまな取組みを行ってきています。



れることがあります。小坂町防災会では、まず「防災活動をやっ

ていこう。」との発想から出発して

し、幅広

い活動を展開して

されています。

自主防災組織が持つ、さまざま

な課題を解消していくためにも、こうした取組みは、有効な手立てとなります。

幅広い活動を 展開していくために

自主防災組織の活動は、町内会や自治会活動の延長として捉えら





「向こう三軒両隣」の仕組みづくり

にしがつく
西学区自主防災協議会

(福山市)

災害時に力を発揮する
隣近所の助け合い

1995年(平成7年)1月17日未明に発生した、兵庫県南部地震。この地震による災害は、「阪神・淡路大震災」と呼ばれる6千人を超える尊い命が奪われることとなりました。

世界にも大きなショックを与えたこの災害では、消防機関や自衛隊による懸命の救助活動が展開されましたが、何よりもクローズアップされたのが、近隣の住民などによる救出・救助活動が果たした役割でした。それ以降、「自分達の地域は、自分達で守る。」と

いう、共助の重要性が、より一層叫ばれるようになり、全国各地で自主防災組織が結成されていきました。

2002年(平成14年)に結成された西学区自主防災協議会(福山市)でも、地域の住民同士による助け合いを、その活動の根幹に据え、さまざまな取組みが実践されています。

テーマは「向こう三軒両隣での助け合い」。身近なところからはじめる防災活動です。